

大天守 だいてんしゅ

天守内部は6階だが、3階が屋根裏になっているため外からは5階に見える。高さは29.4mで、ビルの高さにすると、だいたい10階建てと同じ。



瓦 (かわら)

家紋が付いている瓦が多く、よく見るとさまざまな種類の家紋がある。これは松本藩主の紋で、城主が6家も代わった松本城ならではのディテールだ。



狭間 (きま)

大天守、乾小天守、渡櫓の城壁にある狭間は、鉄砲や弓矢で敵を狙い撃つための穴で、全部で110カ所ある。細長い矢狭間と正方形の鉄砲狭間の2種類がある。



辰巳附櫓

たつみつけやぐら
月見櫓と一緒に増築された。上方が狭く、下方へ曲線状に広がった花頭窓は禅宗建築で、松本城では乾小天守の4階にも見られる。



月見櫓 つきみやぐら

上洛の帰路に立ち寄る予定だった徳川家光に月見をしてもらうために造られた。現存する城郭建造物で、月見櫓をもつものは非常に珍しい。



石垣 (いしがき)

均一に整形せず、自然の石をそのまま合わせて積み上げる野面積み(のつらづみ)という手法を採用。表面の石はさほど大きくないが、奥に向かって長い石を使用。



渡櫓 わたりやぐら

大天守と乾小天守をつなぐだけでなく、天守への入口としての役目もある。敵が容易に入り込めないよう、非常に頑丈な扉で防御されている。

石落 (いしおとし)

城郭の壁や石垣上部に張り出すように設けた開口部。石垣をよじ登って攻めてくる敵に対して、石を落としたり、戦国末期には鉄砲を撃って攻撃した。



乾小天守 けんこてんしゅ

いぬいこてんしゅ
大天守の北に位置する三重四階の櫓で、渡櫓で天守と連結されている。戦国時代には小天守や櫓がない独立式の城が多かったので珍しい様式。